

## コナカイガラムシ防除はブドウ果粒肥大期の果房への薬剤散布が効果的！

ブドウ（‘デラウエア’）の果粒肥大期に薬剤散布を行うことでコナカイガラムシ類による果房被害を軽減できることを、殺虫試験及び薬剤の濃度から確認しました。

### <背景>

コナカイガラムシ類は、ブドウの果房を加害して品質を損ねるため実害の大きな害虫です。収穫間近に果房に寄生すると防除がより困難になります。そこで、果粒肥大期に果房への薬剤散布による防除効果を試験しました。

### <方法>

- 1 コナカイガラムシ類が多発している‘デラウエア’ほ場で、表1の各薬剤を果粒肥大期の果房に散布し、収穫期に被害の有無を調査しました（効果）。
- 2 ベレリン2回目処理期にジノテフラン顆粒溶剤2,000倍液を果房に散布し、14日後、28日後、67日後に果梗及び果実のジノテフラン量を測定しました。

### <結果>

各薬剤とも無処理と比べて寄生虫数は少なく、防除効果が認められました。しかし、いずれの薬剤も処理した一部の果房でコナカイガラムシの死骸やろう物質など被害痕の付着が認められました（表1）。

収穫期のジノテフラン濃度は、果梗で3.53ppmと50%致死濃度の1.58ppm\*よりも高くなり、果粒では0.56ppmと作物残留基準を下回りました（表2）。

表1 ブドウ（‘デラウエア’）果粒肥大期におけるコナカイガラムシ類に対する各種薬剤の防除効果(2012年)

薬剤名	濃度	調査房数	寄生房数	寄生虫数	被害痕数
ジノテフラン顆粒水溶剤	2000倍	10	0	0	3
チアメトキサム顆粒水和剤	3000倍	10	0	0	4
イミダクロプリドフロアブル	5000倍	10	1	1	2
アセタミプリド顆粒水和剤	2000倍	10	0	0	3
ピリフルキナゾン顆粒水和剤	3000倍	10	0	0	3
ブプロフェジンフロアブル	1000倍	10	0	0	5
無処理	—	10	3	11	6

散布日:6月13日、調査日:8月25日

表2 ブドウ（‘デラウエア’）におけるジノテフラン顆粒水溶剤散布後の果梗及び果粒のジノテフラン濃度の推移(2012年)

調査日	果実重量(g/房)	果梗(g/房)	ジノテフラン濃度(ppm)	
			果梗	果粒
4月2日(処理14日後)	29.1	2.1	5.21	1.93
4月16日(処理28日後)	65.3	2.6	3.72	1.39
5月25日(収穫期、処理67日後)	112.6	3.0	3.53	0.56

ジノテフラン散布日:3月18日(GA2回目処理期)

\*フジコナカイガラムシ2齢幼虫の50%致死濃度は、1.58ppm(森下2006)です。

問い合わせ先:資源環境研究部病虫科(担当:澤村信生、奈良井祐隆) TEL 0853-22-6772

E\_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp